

●地域説明会 1月21日 宇治市伊勢田 城南勤労者福祉会館 13時開場

やましろ里山の会は「自然を大切にする仲間の輪をおおきくする」をスローガンに掲げて発足し25年を経過しています。その間絶滅危惧種の植物や動物を数多く発見してきました。同時にその保全や管理に多くの活動時間を割いてきました。その成果や記録を市民に公開する場として発表を木津川沿川の各自治体で繰り返してきました。今年は宇治市、八幡市、京田辺市、木津川市の四会場で開催を計画しました。1月21日（土）には、宇治市伊勢田町の城南勤労者福祉会館で開催しました。展示物には「やましろの歴史」のうち古代のやましろを紹介、そして木津川の魚は何処にいいのかや、イタセンパラの復活を目指すパンフレット、現代の川づくりとして竹蛇籠製作・中聖牛について、など七項目に分けて日頃の活動の成果を展示しました。里山農園の活動紹介コーナーでは、一昨年同志社大学のサッカー部が12月の雨の中で20人がカップもつけずに草刈りをしていただきました。ここは40年間放置されてきた丸山でしたので大変な作業でしたが全貌が見えるようにしていただきました。そして今回は少し以前（化学洗剤を使用する前）までは台所に必須の白土を掘り出した洞穴までの遊歩道の道づくりを同じく12月にサッカー部がボランティア活動で行っていただいたのを紹介しました。また来館者の皆様に集まっていたき、長年木津川などで活動されてきた河川レンジャーアドバイザーの山田信人さん（元木津高校教師）から1時間ほどお話をいただきました。大変好評でした。〈会誌「里山の自然」54号で紹介予定〉

●次回地域説明会 2月4日 さくらであい館で開催

続いて2月4日（土）の午後には八幡市の御幸橋のたもとにある「さくらであい館」で同様の展示会を開催いたしますので多数の皆さんのご来場をお願いいたします。展示内容は同じでございますが、お話を予定しているのは、やましろ地方で活躍されていた新聞記者で、現在河川レンジャーで桂川を中心に活躍され全35名レンジャーの議長をされている南良靖男さんからの報告をお願いしていますので楽しい企画になると思います。こぞってご参加をお願いいたします。

●集草機の威力は抜群 熊手による人力での作業 大幅に軽減

木津川希少種生育調査管理業務のうち昨年購入した小型の自動集草機は平面使用では使いやすい道具なのですが斜面では低いほうへと流れやすく苦労しますので、良い方法はないものかと思案をしてきました。そこで堤防の上部からロープで下部への方

 向転換を防止しながらついて歩くと比較的に能力を発揮させることができました。この方法によって刈り草を全面積からかき集める作業が大変省力化できることができました。

●中聖牛の組み立て 京都大学防災センターで伝統的河川工法の再現を実施 1月28、29日。2月3、4日

2015年に初めて竹蛇籠製作に取り組んでから8年が経過しました。この間で学んだことは均一な材料（幅4.5cm）の竹材を用意することでした。そのための製造機を工夫してきましたが、基本的には従来から使われてきた分割機能のものを使うことになっています。また幅精製機は幅調整の部分が上手くいかず苦労の連続ですが、なんとか8年間を取り組みで竹蛇籠製作については人力で形が整形されるところまでスタッフの皆さんが技術を取得されました。また中聖牛の組み立てについても5回の取り組みでおおよそ組み上げられるところまで腕を磨きました。いずれも細部のところは不十分ですが、まったくの素人がここまで上達できたことは暗中模索の中すごい前進です。ここまで到達出来ましたがこれを継続してゆくことはさらに困難と思います。なかなか需要がなく、このまま消えてゆくのではないかと案じています。今回京都大学宇治川の防災研究所（ラボラトリー）の正面駐車場横に設置することに1月23日（前立柱の主柱穴開

け)1月28日(主柱の棟上げ)1月29日床部分の結線、2月3日(針がね締め)4日(石詰め)の作業が最後の取り組みになる予定(中心になって来た竹門康弘先生が3月に退官)ですので、誠に貴重な取り組みになります。関心を持っていただいていた皆さんが一堂にお集まりいただければと思います。よろしくお願いいたします。

●積雪を乗り越えて事務局会が開かれる 1月25日

5500m 上空に -36°C の寒波が流れ込み、地上では -5° になって朝には路面が殆どアイスバーン状態でした。それを突破して皆さんが事務所に定刻に集結され、いつものように会議が始まりました。通常なら家を出られないので欠席となるところですが、熱心な皆さんが里山の会を何としてもよくしようという熱意の表れでした。京都市内では15cmの積雪だったそうです。

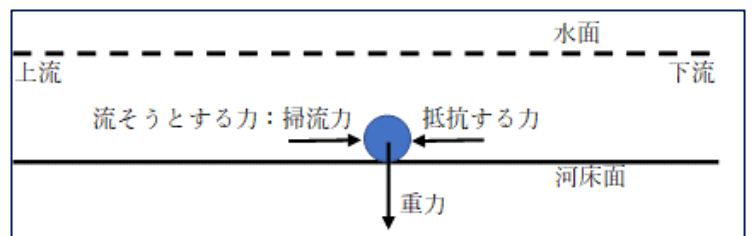
●ヤマトサンショウウオの卵囊が発見される 1月24日

金田さん太田さんが確認してくれました。昨年5月に水の通路と流失土砂の関係で生育池周辺の土木工事が実施され、12月から降雨がなく池が干しあがるアクシデントなどがありましたが、今年初めての卵囊2対産み付けられているのをお二人が確認されました。これで多少の影響はあったのですが、絶滅は免れたと判断してもいいのではないかと思います。胸をなでおろすことになりました。また里山農園ではキタキョウの越冬が確認され3匹が冬眠しているところも発見されています。

●小川芳也さんの松江通信 No. 17

1秒間にある断面(地点)を流れる水の量(流量(m^3/s sはsecondで秒))は、水が流れる面積(河積:単位は m^2) $\times$ 流速(単位は m/s)で求めることができますので、これまでに流速を求めるために仮定した川幅が100mで水深が2mだとすると、斐伊川は約 $1200\text{m}^3/\text{s}$ 、木津川は約 $380\text{m}^3/\text{s}$ となります。この時期の八幡地点における木津川の流量が約 $20\text{m}^3/\text{s}$ なので、夏場の少しまとまった雨が降ったイメージを想像してもらえたらと思います(2021年8月中旬の時ぐらい)。水面勾配が異なるだけで、流速だけでなく流量も大きく異なることが把握できたと思います。

次に、上流から下流に向けてある一定の流速が発生している水中で土砂が静止しているとします。この土砂粒子には粘性が無い・隣接する土砂と絡み合っても無いとすると、土砂粒子には



重力と流そうとする力(掃流力)と流れに抵抗する力が作用します(上図参考)。この続きは次回に...

●太田敏之さんの小笠原旅行日記 ～3日目 2022年11月28日 月曜日～

今日は一日シーカヤックの日で、朝8時半に車でお迎えです。シーカヤックは扇浦海岸から出発の予定でしたが、風が強いので急遽変更で八ツ瀬川から小港海岸へ出てということになりました。船は2人乗りのシットオンカヤックです。一艇は神奈川からの母娘、一艇は今年だけで3回目の小笠原だという神戸からの女性と案内役のトミーGさん、そして私は2人艇に1人で乗ることになりました。八ツ瀬川で少し練習した後、小港海岸から洞窟くぐりなどをした後、コペペ海岸に行き、そこでシュノーケリングをして昼食となりました。シュノーケリングでは多くのきれいな魚やサンゴに出会うことができました。その後、歩いて近くの旧日本軍のトーチカを見に行きました。昨日のバス観光でも見ましたが、父島には多くの戦跡が残っていますが、多くは岩山をくりぬいたトーチカとして残っています。トーチカの中には錆びた大砲の残骸などが残されています。ガイドのトミーGさんは小笠原の動植物にもとても詳しく、たくさんのかたちを教えてください、たくさん天然記念物を見せていただきました。